

## 彙報

### 第一九回総会及び研究集会

木簡学会第一九回総会及び研究集会は、一九九七年二月六・七日に、奈良国立文化財研究所平城宮跡資料館講堂において、一八五名の参加者を得て開催された。会場には、平城宮跡・平城京跡・飛鳥池遺跡（以上、奈良国立文化財研究所）、長登銅山跡（山口県美東町教育委員会）、山垣遺跡（兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所）の木簡が展示された。

◇一九九八年二月六日（土）（午後一時～五時）

第一九回総会（議長 福岡猛氏）

狩野久会長の挨拶で開会后、以下の報告が行なわれた。

会務報告（館野和己委員）

会員の状況（新入会員八名・二団体）、幹事の交替（大隅清陽氏・吉川敏子氏退任、増渕徹氏・吉川聡氏新任）、会員サービスの概要、常任委員会の設置についての報告があった。

二〇周年記念事業についての報告（和田萃委員）

①長野特別研究集会の開催、②長屋王家木簡をテーマとするシン

ポジウムの開催、③木簡の図録の刊行などを予定しているとの報告があり、①については同研究集会の実行委員長である平川南委員から追加説明が行なわれた（同実行委員会については、長野特別研究集会の項参照）。

編集報告（鎌田元一委員）

『木簡研究』第一九号の編集経過、及び価格を前号と同じ五五〇〇円に決定したことが報告された。

会計・監査報告（山中敏史委員・八木充監事）

山中委員から一九九六年度の会計決算報告が行なわれ、八木監事から会計が正確かつ適切に行なわれている旨の監査報告がなされた。ついで、山中委員から、一九九八年度の予算案の説明が行なわれた。以上の案件については、異議なく承認された。

研究集会（司会 寺崎保広氏）

門勝制と木簡

長登銅山跡出土木簡

長登銅山と古代木簡

今泉氏は、門勝制の概要とそれに関係する木簡についての研究成果の報告、池田氏は長登銅山跡の調査成果をスライドを併用して説明、八木氏は同遺跡出土木簡の検討成果についての報告を行なった。

◇一九九八年二月七日（日）午前九時～午後三時  
研究集会（司会 清水みき氏・石上英一氏）

一九九七年全国出土の木簡

渡辺 晃宏氏

山垣遺跡出土木簡の再検討

加古千恵子氏・平田博幸氏・古尾谷知浩氏

下ノ西遺跡の調査成果

田中 靖氏

渡辺氏の報告は、例年通り全国の出土木簡とその遺跡について概観したもので、その多くは本号に収録することができた。加古・平田・古尾谷三氏の報告は、以前に出土し報告されていた山垣遺跡出土木簡について、保存処理後の再調査の成果を発表し、新たな接続による知見が呈示された。田中氏の報告は、下ノ西遺跡の概要と木簡の説明で、出挙や国司借貸に関わる木簡などが取り上げられた。

午後からは、二日間の報告をめぐって活発な議論が行なわれ、最後に町田章副会長の挨拶をもって研究集会を終了した。なお、本年度は、適当な現場がないため発掘現場見学は行なわれなかった。

#### 長野特別研究集会

一九九八年六月五日（金）・六日（土）の両日、木簡学会、二〇周年記念事業の一環として、更埴市において、長野特別研究集会が開催された。木簡出土の現地における研究集会の試みとしては、一九九四年九月の新潟特別研究集会に続くものである。木簡学会の主催、長野県立歴史館と長野県埋蔵文化財センターの共催として実施し、実務は別に組織した実行委員会（委員 小林秀夫・佐藤信・鈴木景一・館野和己・傳田伊史・早川万年・平川南・福島正樹・山口英男の各氏。委

員長平川氏、事務局長福島氏）と運営委員会（委員 小林秀夫・土屋積・

傳田伊史・平川南・広瀬昭広・福島正樹・百瀬長秀の各氏、ほか歴史館・

埋文センターの方々。委員長小林氏）が担当した。開催にあたっては、

各教育委員会をはじめ地元の方々には多大のご協力をいただいた。

また、長野県教育委員会・長野市教育委員会・上田市教育委員会・

更埴市教育委員会・信濃史学会・長野県考古学会・信濃毎日新聞

社（財信毎文化事業財団のご後援をいただいた。なお、通常の研究

集会では参加者を会員に限っているが、新潟特別研究集会と同様に

今回も地元の研究や大学院生にも参加を呼びかけ、多数の参加を

得た。

◇一九九八年六月五日（金）（午前九時～午後五時半）

現地見学会

長野駅東口に集合し、バス三台に分乗して見学会に出発した。午前中は上田市立信濃国分寺資料館と国分寺跡の見学、昼食を挟んで午後は屋代遺跡群・更埴条里遺跡を車中から望み、森將軍塚古墳・古墳館へ向かいこれを見学し、さらに長野県立歴史館で屋代遺跡群出土木簡の観察、常設展示の見学を行なった。その後長野市に戻り、引き続き懇親会を開いた。見学会の参加者は、会員八八名、非会員二四名、計一一二名であった。

◇一九九八年六月六日（土）（午前九時～午後四時）

研究集会（司会 福島正樹氏・平川南氏・佐藤信氏）

「七世紀の社会と木簡―屋代木簡をめぐる―」と題して、長野県立歴史館講堂において、研究会を開催した。佐藤宗諱副会長の開会挨拶、長野県立歴史館の市川健史館長の歓迎挨拶の後、実行委員の福島正樹氏の司会によって、次の五本の基調報告が行なわれた。

信濃の古代と屋代遺跡群

七世紀の屋代木簡

七世紀の地方木簡

七世紀の宮都木簡

律令制の成立と木簡

基調報告の後、平川・佐藤両氏の司会によって討論が行なわれ、和田萃氏の挨拶によって閉会した。参加者は、会員一二三名、非会員九〇名、計二二三名であった。なお、別室では、屋代遺跡群出土木簡、徳島市観音寺遺跡出土木簡（写真）の展示を行なった。

以上の報告及び討論については、本号に掲載した。

なお、翌六月七日（日）の午前九時半から午後四時まで、「屋代木簡公開シンポジウム今よみがえる信濃の古代」が二二一名の参加者を得て長野県立歴史館講堂において開催された。主催は同シンポジウム実行委員会、共催は木簡学会・長野県立歴史館・長野県埋蔵文化財センターなどである。内容は、小林・福島・山口・平川各氏の基調報告、早川・鈴木両氏のコメント、及び佐藤・館野両氏の司会によるディスカッションで構成されるものであった。

### 委員会報告

◇一九九七年二月六日（土）午前一〇時三〇分～午後〇時

於奈良国立文化財研究所

総会に先立ち、会務・総会と研究会の運営・『木簡研究』第一九号の編集経過と価格決定・二〇周年記念事業の計画・長野特別研究会の準備状況・会計事務について報告がなされ、審議の上承認された。

◇一九九八年六月二日（金）午後二時～午後五時

於奈良国立文化財研究所

会務報告として、一名の退会、及び幹事の交替（今津勝紀氏から山本崇氏へ）が提示され、承認された。続いて入会審査、長野特別研究会の結果・会計事務・『木簡研究』第二〇号の編集状況（担当は清水みき委員と渡辺晃宏幹事）・総会と研究会及び二〇周年記念事業の準備状況について報告が行なわれ、審議の上承認された。

◇一九九八年一月六日（金）午後二時～午後五時

於奈良国立文化財研究所

会務報告として二名の退会（逝去）が報告された後、入会審査が行なわれ、九名の入会が承認された。続いて会計事務・長野特別研究会の会計・『木簡研究』第二〇号の編集・二〇周年記念事業の進行状況の報告があり、審議の上承認された。また、委員の改選についても話し合った。

（鈴木景二）